

令和6年2月 15 日
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局
未来革新研究推進担当

1. 目的

ムーンショット型研究開発制度(以下、MS 制度)の運用・評価指針において、「CSTI は、研究開始時点から5年目に MS 目標に対する進捗状況、今後の MS 目標の達成の見通しを評価し、MS 目標の達成に向けた研究開発(プログラム)の継続・終了を決定する」と記載されている。本実施要領は、CSTI5年目評価の方法及び視点を示すものである。

2. 評価方法

- CSTI 有識者議員懇談会を2回開催し、CSTI5年目評価を実施する。
- 1回目の会議において、評価対象となる目標のプログラムディレクター(以下「PD」という。)及び研究推進法人は「3. 評価の視点」に記載した内容について、CSTI 有識者議員に報告する。
- 1回目の会議後に、内閣府は、CSTI 有識者議員の質問や意見をとりまとめるとともに、継続・終了を含む評価結果の案を作成する。
- 2回目の会議において、評価対象となる PD 及び研究推進法人(以下「FA」という。)は、CSTI 有識者議員の質問や意見に対して回答するとともに、内閣府は継続・終了を含む評価結果案をとりまとめる。
- CSTI 本会議において、評価対象となる目標の継続・終了を決定する。

3. 評価の視点

MS 制度の運用・評価指針に記載されている「MS 目標に対する進捗状況、今後の MS 目標の達成の見通し」について、評価の視点と報告時の留意点を以下に示す。

○MS 目標に対する進捗状況

2030 ターゲットに向けた進捗状況を個々のプロジェクトの進捗ではなく、MS 目標を達成するための進捗及び課題の把握と理解の状況について評価する。

○今後の MS 目標の達成の見通し

後半5年を含め目標達成に向けたシナリオを点検した上で課題等の整理状況とそれらの対応方針について評価する。

(留意点)

- 進捗状況や達成の見通しを報告する上で必要な 2030 ターゲットの明確化・詳細化
- 2030 ターゲットと各プロジェクトとの関係整理、課題や不足する技術等に対応するためのターゲットやポートフォリオの見直しの方向性
- プログラム終了後の社会実装に向けた取組みの方向性
- 国際的ベンチマーク等による国内外問わずトップレベルの研究開発としての位置づけ整理
- 世界中からの英知の結集や失敗を恐れず挑戦的な研究など MS 制度の基本的な考え方における特徴を踏まえた取組についての状況や課題
- PD としてのマネジメント方針

などの考え方を含めて報告する。

以上